

## はじめに

新型コロナウイルス感染症の感染拡大をはじめとする社会の急激な変化の中で、学校はその役割や存在意義について改めて考えさせられました。しかし、そのことで学校の存在を再認識することもできました。令和3年1月に示された中教審答申においては、学びを保障する手段としてのオンライン学習等が注目されるとともに、教師による対面指導や、子ども同士による学び合い、地域社会での多様な体験活動など、リアルな体験を通じて学ぶことの重要性も改めて注目されたとしており、子どもたちを支える伴走者である教師には、ICTも活用しながら、個別最適な学びと協働的な学びを充実し、子どもたちの資質・能力を育成することを求めています。

また、本市では、令和4年度より「第2次川崎市教育振興基本計画 かわさき教育プラン」第3期実施計画をスタートさせ、基本理念「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」及び基本目標「自主・自立」「共生・協働」の実現に向けて、8つの基本政策に基づき、新学習指導要領の確実な実施、GIGAスクール構想の推進、子どもの多様化するニーズへの対応等の取組を進めているところです。

そのような中、川崎市総合教育センターは、設立以来、多様化する教育課題等を踏まえ、川崎の教育の創造と発展に資することを目的とした調査研究を行っていますが、本年度の実践研究主題を「自己実現を図り、持続可能な社会を創る資質・能力の育成」とし、児童生徒が自己肯定感をもちながら、可能性に挑戦して豊かな人生を切り拓くことで自分らしく人生を送ることや、多様性や共生・協働の精神を尊重し、持続可能な社会を創り、その一員として社会に参画するための資質・能力の育成に資する研究を進めてきました。

本研究紀要は、令和4年度の総合教育センターの研究のまとめとして、各研究会議の研究内容を編集したものです。各研究は、川崎市立学校から派遣していただいた長期研究員やカウンセラー研究員、各研究会議の研究員が、当センターの指導主事と共に取り組んだ1年間の研究で、これからの社会を生きる川崎の子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせるべきかを明らかにしようとしています。

この研究紀要が、かわさき教育プランの実現、学校教育目標の実現につながる、各学校における教育実践のさらなる充実や改善に役立つことを願っております。

結びとなりますが、それぞれの研究に対しまして、ご指導ご助言いただきました川崎市総合教育センター専門員の方々をはじめ、お力添えいただきました全ての方々に厚く御礼申しあげます。

令和5（2023）年3月

川崎市総合教育センター  
所長 鈴木 克彦